

JAL2015 はじめに

本書は、平成 27 年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）に基づく「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」（実施期間 2015 年 11 月 16-27 日）の最終日 11 月 27 日に開かれた公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 II」（以下、WS2）の報告書です。

この事業の略称である JAL2015 の JAL とは、**Japanese-art librarian** であり、海外において日本美術の資料に携わる司書を日本に招き、日本における美術資料・情報の現況を多面的に触れていただきながら、関係者との交流を図るもので、2014 年度が初回で今年度は二度目の開催となりました。

JAL は librarian、司書を主な対象としておりますが、加えて、アート・アーキビスト (art archivist)、視覚資料司書/学芸員 (visual resources librarian / curator)、さらに視覚資料をおもな研究対象資料とする日本研究者も応募可能な対象者といたしました。本書巻末に掲載の募集要項においては、下記のように記載しております。

a) 日本国外において日本美術に関わる文献および視覚資料の扱いに携わる図書館員

A librarian working on Japanese-art-related literature and visual materials outside Japan

b) 日本国外において日本美術に関わる文献および視覚資料の扱いに携わるアーキビスト、ヴィジュアル・リソース・キュレータ

An archivist or a visual resources curator working on Japanese-art-related literature and visual materials outside Japan

c) 日本国外において日本美術の関わる文献および視覚資料を用いて日本研究に従事している者

A Japanologist using Japanese-art-related literature and visual materials outside Japan

日本美術の範囲については、「写真・映像・マンガ・デザイン・建築等の視覚芸術全般」を含むものというようにながりの広範囲といたしております。以上は、初回（JAL2014）の要項と同じです。

JAL2015 実行委員会では、平成 27 年度の始まりとともに組織され、海外関係諸機関 (IFLA、NCC、EAJRS 等) のメーリングリストに公募情報を流しました。初年度より多くの異なる国々からの照会がありました。8 月に実行委員およびコメンテータ (小出いずみ氏) による選考会議の結果、本書において WS2 でのプレゼンテーションを記録掲載する 9 名が招へいされました。

昨年度の初回の 7 名が日本人の JAL、つまり日本人で海外において日本美術の資料を扱う

専門家であったのに対し、今回の 9 名は日本語を母語としない 7 カ国（チェコ、イギリス、ノルウェー、アイルランド、ドイツ、USA、韓国）、8 都市（プラハ、ロンドン、オスロ、ダブリン、ベルリン、ピッツバーグ、オレゴン、ソウル）からの参加でした。この 9 名が体験した日本語での研修、日本語での WS2 でのプレゼンテーションの困難と負担は、昨年度の比ではありませんでした。

今年度の募集要項においては、より多様な国籍の方を招くことを意図して、日本語での日常の会話は必須の条件といたしました。WS2 におけるプレゼンテーションなどにおいては、言語的障壁を緩和するために、日英バイリンガルのプログラムコーディネータを設けるなどの工夫と配慮をいたしました。であっても、国籍も母語も異なる招へい者が集い、共同作業としてのプレゼンテーションを成し遂げるに必要だった、彼ら 9 名の WS2 にかける熱意と奮闘には、驚きながら、深い尊敬の念を覚えました。

11 月 16 日より、東京・京都・奈良からさらに博多、大宰府の 10 機関を訪問しながら研修と相互の親睦を深めて、招へい者は 2 日間の準備とリハーサルを経て、そして最終日の WS2 の当日を迎えたのでした。

掲載のプログラム (p.6) の通り、10:30 から始まった WS2 は、加茂川実行委員長の挨拶、水谷副委員長の基調報告に続いて、午前中に招へい者各人の自己紹介、午後には NCC 議長のマクヴェイ山田久仁子氏による特別招待講演、そして招へい者が 3 人ごと 3 グループに別れて、「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 II」を試み、最後にはフロアとの質疑を交えてのパネルディスカッションとなりました。

WS2 のタイトルは前回同様「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」としたのは、5 つの JAL2015 の目的²⁾の一つであり、その中でも特に大きな眼目であった、「日本の美術情報資料の基盤を客体化する」ことを狙ってのことでした。

その目的の達成については、ぜひとも招へい者ならびにコメンテータの精力的なプレゼンテーションの記録をご覧いただき、ご批評を賜れば幸いです。

WS2 を終えて後の 12 月 9 日、実行委員およびコメンテータは、「JAL2015 事後報告会」を開いて、今回の JAL の成果と課題を検証し総括する機会を設けました。議論の結果、招へい者の残した提言にいささかでも反応し答える責務が実行委員会にあることを確認して、本書末尾に「JAL2015 招へい者の提言に応答することの試み」としてまとめております。

本プロジェクトは文化庁の補助金によるものであり、最低でも 3 年間の継続を目指してきまして。最終年度となる次年度の JAL2016 へ向けて、申請書を用意するとともに、並行して本報告書の編集制作を進めました。さらに機会ある限り、JAL プロジェクトについて、今後の多くの参加者を募るためにも、幅広く広報に務めたいと考えております³⁾。

最後に多くのご協力、ご支援をいただいた関係各位に深くお礼申し上げます。

2016.3.31

JAL2015 実行委員会

註

1) JAL2015 の実行委員会は、委員長に加茂川幸夫（東京国立近代美術館長）、副委員長に松本透（同副館長）、副委員長兼事務局長に水谷長志（同主任研究員）、委員に川口雅子（国立西洋美術館）、谷口絵里（国立新美術館）、山梨絵美子、橘川英規（東京文化財研究所）、江上敏哲（国際日本文化研究センター）、栗田淳子（国際交流基金）。

2) 基調報告（p.10-13）に記載。

3) 水谷長志「JAL2015 公開ワークショップ報告 今年の JAL は 7-8-9！ 3 人 3 グループ 9 人の JAL が果敢にチャレンジした「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 II」附：短報「美術館インフォマティクス専門家シンポジウム」（韓国国立近現代美術館ソウル館、2015.11.13）『アート・ドキュメンテーション通信』108号（2016.1.25）, p.9-10.

謝辞

JAL2015 の実施にあたり、貴重なご助言、ご協力をいただいた下記の皆様に深く感謝の意を表します。（順不同、敬称略）

赤間亮（立命館大学）

田良島哲、村田良二（東京国立博物館）

宮崎幹子、嘉数周子（奈良国立博物館）

富坂賢、竹内俊喜、美原沢子（九州国立博物館）

黒田雷児、五十嵐理奈、柏尾沙織（福岡アジア美術館）

岡室美奈子、三橋重美（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館）

佐藤従子（国立国会図書館）

Kuniko Yamada McVey, マクヴェイ山田久仁子, Chair, NCC, Librarian for the Japanese Collection, Harvard-Yenching Library

Prof. Dr. W. F. Vande Wall, Chair, EAJRS, KU Leuven

Arjan van der Werf, Secretary, EAJRS, KU Leuven

Katharina Suzanne Rode, PhD Candidate, Universität Heidelberg

Naomi Yabe Magnussen, Senior Librarian, University of Oslo

Kuramasu Nobuko, 倉増信子, The Asia Library, Stockholm University

Pekka Karhula, Library, Helsinki University

Merete Pedersen, Library, Copenhagen University

Mary Augustus Thomas, Deputy Director, Smithsonian Institution Libraries

Dr. Joachim Brand, Deputy Director, Kunstbibliothek, Staatliche Museen zu Berlin

Hirano Akira, 平野明, The Lisa Sainsbury Library, Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Culture

Ichikawa Yoshinori, 市川義則, Maison du Japon Cite Internationale Universitaire de Paris

Kumiko McDowell, Library, Oregon University

Yoshimura Reiko, 吉村玲子, as Program coordinator of JAL2015, Library, Freer Gallery